

## ■腹腔鏡下手術の紹介

### ○腹腔鏡下手術とは？

腹腔鏡下手術とは、これまで大きく切開して手術を行う開腹術と異なり約5mmと10mmの筒状の器具を挿入して、テレビモニターにお腹の中を映し、マジックハンドに似た器具（鉗子や電気メスなど）を挿入して手術を行う方法です。

ただ、摘出する臓器によっては約5～7cmの皮膚切開が必要な場合もあります。いずれにしても開腹術と比較して体に与えるダメージが少なく、術後の回復が非常に早いという利点があります。また、拡大視ができるという利点があり開腹術ではわからなかった非常に小さな血管、神経まで見ることができます。

### ○腹腔鏡下手術でどこまでできるのか？

日本では腹腔鏡下手術は1980年代終り頃から導入され、主に胆嚢摘出術に対して行われました。現在、国内の胆嚢摘出術の約85%は腹腔鏡下手術です。また、器具も進化し、より安全な手術が可能となってきています。それに伴い、手術対象臓器も胆嚢だけでなく胃、大腸をはじめほとんどの臓器が腹腔鏡下手術の対象となりつつあります（もちろん、それぞれに適応は異なりますが）。王監督が腹腔鏡下胃全摘術を受けたことも要因の一つと思われるのですが、ここ2、3年で腹腔鏡下手術の件数は急激に増加してきています。



外科医長 角 泰雄

加西病院でも胆石症、十二指腸潰瘍穿孔、あるいは急性虫垂炎（通常は腰椎麻酔での手術ですので開腹術で行いますが、ご希望があれば全身麻酔下での腹腔鏡下手術も可能です。腹腔鏡下虫垂切除術の有効性が近年報告され、アンケート調査では昨年国内で行われた件数は約1800件でした。10年前の約20倍以上の数です。）などの良性疾患だけでなく、胃癌・大腸癌に対する腹腔鏡下手術も徐々にではありまが、行っています。また、加西病院での腹腔鏡下胆嚢摘出術では体内異物を残さないという考えのもと、胆嚢動脈・胆嚢管の処理は金属クリップを使用せずに可能な限り吸引糸を用いて結紮しています。



（クリップレス腹腔鏡下胆嚢摘出術と言います）

腹腔鏡下手術の様子

## ■加西病院でできる臨床検査の紹介

### 1. あなたは大丈夫？メタボリックシンドローム

メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)とは

肥満症や高血圧、高脂血症、糖尿病などの生活習慣病は、それぞれ独立した別の病気ではなく内臓に脂肪が蓄積した内臓脂肪型肥満が原因です。このように、内臓脂肪型肥満によって、心筋梗塞、脳梗塞、胃がん等の病気が引き起こされやすくなった状態を『メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)』といい、治療の対象として考えられています。

#### どんな検査があるの？

##### 血液検査

- ・善玉コレステロール
- ・空腹時血糖
- ・空腹時血中脂質
- ・ヘモグロビンA1c

##### 生体検査

- ・負荷心電図
- ・心エコー検査
- ・頸部血管エコー

### 2. 糖尿病～あなたも予備軍かもしれません～

糖代謝の異常によって起こり、血液中のブドウ糖濃度が病的に高まることによって、特徴的な合併症（糖尿病性神経障害・糖尿病性網膜症・糖尿病性腎症）をきたすか、きたす危険性のある病気です。

#### どんな検査があるの？

##### 血液検査

- ・血中インスリン
- ・空腹時血糖
- ・糖負荷試験
- ・ヘモグロビンA1c (HbA1c)

##### 尿検査

- ・検査項目
- ・尿タンパク検査
- ・尿糖検査

糖尿病は、糖尿病性神経障害・糖尿病性網膜症・糖尿病性腎症といった重大な合併症を引き起こすことがあります。